

合理的配慮

困っている子どもへの合理的配慮

たとえば、**一方的な発言を繰り返す子どもの座席を最前列にしたのに、**
次のような子どもの姿を目にすることはないか、**振り返ってみましょう。**



ある

静かにするのを我慢できなかつたり立ち歩いたりする。



先生が個別に伝えた指示どおりに活動ができない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から**掘り下げて**みましょう。

その子は、しゃべっていることを受け止めてもらえた実感をもっているでしょうか？

先生の伝え方は、その子にとって本当に分かりやすくなっていましたでしょうか？

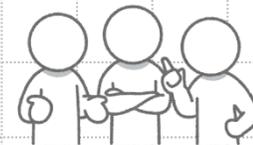
こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を**見直して**みましょう。



「**子どもの視点**」に立って見直した内容を**交流して**みましょう。

メモ



【参考】子どもたちが学校で学びやすくなるための工夫「合理的配慮」

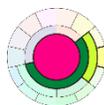
子どもたち一人ひとり、誰もが違った個性を持っています。得意なことも苦手なこともあるので、中には、みんなと同じ方法、同じペースでは、学ぶのが難しい場合もあります。そんなとき、視力が悪い人がメガネをかけるように、その子にピッタリの方法が見つければ、きっと学びやすくなるはずです。

(株式会社 LITALICO「学校での合理的配慮ハンドブック」2016年1月)

試みたいこと

「困っている子どもへの合理的配慮」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)



長野県教員育成指標との関連

「困っている子どもへの合理的配慮」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈現代的な諸課題への対応〉⑬〈インクルーシブな教育〉に関連しています。